



世代間の交流の機会を増やしていききたいですね。このままでは、お年寄りの生活の知恵、人生の知恵が伝わっていきません。

子供たちにコンピュータゲームより、もっとおもしろいことがあることを教えてあげたいですね。



広告などのチラシ紙で、「チョウチョウ」を作る折り紙講習会を行いました。講師は93歳の方でした。それを習った方が家で、家族に教える。教えること、すごく励みや喜びになります。感動や充実感を生み出すんですね。「サロンウイッシュ」をやってみて、これまでの人生で知らなかったこと、経験できなかったことを勉強する毎日です。



温水プール「ぶるも」で世代間の交流を



温水プールができて4カ月たちました。男性も女性も、子供もお年寄りもみんなの交流の場にしたと思っています。

プールは、泳ぐだけじゃなく、歩いてもいいところです。

はじめは水着になることがはずかしいと思っていたのに、「一度水に入ると、楽しくてしょうがなく

なった」という方にずいぶんお会いしましたよ。



今、入学前の子供を対象とする教室やお年寄りの教室がないんです。プールは昼間は空いているのに、その時間に教える人がいない。我々のグループに要請がきても、みんな仕事を持っていて、昼間はできません。

その解決には、指導者の養成が必要ですね。そういった年代や時間のすき間を埋めることが今年の課題です。そうすれば、水泳人口はもっと増えるはずですよ。

高齢者にも元先生など資格をもった人は市内にも埋もれていまして、



指導者の養成講習も必要です。いろいろな世代の人が「ぶるも」で交流できるようになって欲しい。それぞれの生活のリズムにあった使い方ができるようになればいいですね。



昨年、「ぶるも」の見学をしました。今年はずいぶん利用してみたいと思っています。いきなり泳ぐのは無理なので、水の楽しさの体験からですね。



水泳は、習わなければ覚えられない運動です。人間が本能として備えている「歩く」「走る」「跳ぶ」「投げる」「食べる」などの運動とは根本的に異なります。



「これからはボランティアの情報をまとめて市民にお知らせするシステムが必要です」



「病院の小児科に入院している子供に、読み聞かせをしたらどうでしょう」



「こういった感動が広がれば、このまちはもっと、もっと明るいまちになっていくはず」



「ボランティア同士が、互いに情報交換しながら活動を進めていけば、より大きな力になる」

やりたい気持ちはあっても時間がないという場合もあります。会社でもボランティア休暇が制度化されるなど、働いている人でも参加しやすい環境が必要ですね。ボランティアは慈善事業ではないということ。福祉は、誰でも受けられる権利だと思えば、誰でも手助けできることだと思います。子供から大人まで、みんなが地域のことをいっしょに考える。そういう福祉教育も必要ですね。



それとおおりです。ほかのだけれどもなく、自分がこのま



ちをよりよくするために何ができるかですね。最初は構えてしまっ

らえて、ありがとうと返したくなる。それがボランティアなのかな。今年、病院に花を飾るために、昨年の秋に、フラワー班で花を植えました。その苗、たい肥、土を提供してくれた人もいます。それもボランティア。その場でやっ



てる人だけがボランティアじゃない資格がなくても、気持ちがあれば



できると思います。まさに自分の「こころ」です。何をすれば充実感

味わえるか。どういう活動があるのか情報提供したいと思っています。感動をもらえらるってことですね。「やってよかった」という気持ち。お金や労力の問題じゃない。だから続くんですよ。水泳でも、5mしか泳げない人が15m泳げた。本人はずいぶん嬉しい。その笑顔を見ている我々は感動する。こういった感動が広が



経験という財産を次の世代に伝えたい



ボランティアをしたいと思います。思っている人は、少なくともいはずです。そういう方たちに、なにかアドバイスはありますか。



水泳の場合、指導者の資格を取るのが難しい時期がありました。でも、希望者がいれば、わたしたちも教えますし、経験のある人なら、1〜2カ月くらい頑張れば指導者の資格を取れると思います。お年寄りでも、指導者になることは可能です。



今までは、呼びかけと応募のタイミングが合っていないなかつたような気がします。広報誌や新聞、口コミも含めて、もっとPRが必要ですね。時間に合わせた参加も、得意な分野での参加もできますから。



これからはボランティアの情報をまとめて市民にお知らせするシステムが必要です。市役所のインターネットホームページでも紹介したりして、「わたしには何ができるだろう?」「これなら」となるように。



わたしもそういうシステムがあればと思っています。

ば、このまちはもっと、もっと明るいまちになっていくはず。ボランティア同士が、互いに情報交換しながら活動を進めていけば、より大きな力になるのではないのでしょうか。病院の小児科に入院している子供に、読み聞かせをしたらどうでしょう。喜びますよ。図書館の司書さんは協力しているはず。ボランティアでもそういう活動のフィールドを広げたいですね。今は月2回で精一杯ですが、会員を増やして、外出できない人には、宅配サービスをしたり。図書館に対するニーズをつかむのにも必要です。

4月から学校が週5日制で、毎週土曜日が休みになります。その土曜日に、町内会で大人が寺小屋の先生になって、子供に大工仕事とか縄結びとかを教えよう、次の世代に受け継いでいこうと、それを町内会で、ボランティアでやろうという話がでています。わたしが、水泳の指導を始めたのも、町内会の行事がきっかけでした。原点はボランティア。互いに、誰でも先生になって経験という財産を次の世代へ渡していくべきだと思っています。自分たちのまちのことをみんなが考え、みんなで行動する。そうすればあたたかいまちになっていくはず。経費の負担はどうするとかいう問題もありますが、市民がもっと力を発揮できるように、そういう場を作っていくかと思っています。2002年の留萌は「ボランティア元年」。そういう年になればいいですね。今年一年、みなさんのご活躍をお祈りいたします。